



▲新川第二町内会自主防災会で行われた防災研修会



▲土砂崩れ（昭和55年・片倉町）



▲大雨災害（昭和58年・中央町）

大きな被害を受けているように、これからも雨の災害が一番心配です。市内にある大きな川は50年に一度の確率の大雨を想定してつくられています。その雨が明日降るかもしれません。災害発生時にいかに避難できるか災害予想区域図ができて、このくらいだとこうなるということが分かりますので、危機意識を持って行動することが大切です。自分だけは大丈夫だと思わないようにするにはどうすることが必要なのか。そういう考えを取り払っていかに市民を避難させるかがこれからの行政の課題だと思っています。そして、市民の皆さんは行政に頼らずに、自分の命は自分で守ることが大切です。また、災害が起きた後は災害予想区域図を避難所も含めて見直して行くことも大切です。災害予想区域図はとても良くできたと思います」と岸さんは、自信の笑顔を見せてくれました。

町内会みんなで協力し助け合うことが大切です

「富岸川の改修前に2回ほど町内で浸水がありました。改修後は起きていません。町内会では自主的に防災組織をつくっています。防災の手引書を作成して各戸に配布し、災害時の避難経路や避難場所を把握していただいています」

と話すのは汐平町内会会長の菅井博昭さん。



菅井 博昭さん

「気になる災害は突然起こる地震ですね。それから、町内会では独自に第1避難場所を緑陽中学校、第2避難場所を総合体育館と決めています。会員が高齢化していますので、いざ避難というときに1人で避難できない方をどれだけ助けられるか心配ですね。今後は災害予想区域図で想定された災害に対する手引書に沿った訓練の方法が課題です。それから、市には自主防災組織結成後のバックアップをしていただきたいですね。例えば、消火器にはどういものがあって、どういう消火器がどういう火災に利くとかそういう情報提供がほしいですね」と積極的な防災活動に取り組んでいる様子を見せてくれました。

自分の家族と自分自身を守るために

日ごろから、自然災害に備え防災の意識を持つことが、とても大切なことだと改めて思いました。

岸さんが最後にこんなことをおっしゃっていました。「自信過剰になってはいけない」「自分だけは大丈夫で安全だと思わない」「災害は急にやってくる、予期したようにはやってこない」まさにそのとおりだと痛感しました。

災害予想区域図が配られたら、自分の住んでいるところがどんなところで、どんな災害に注意しなければいけないのか。災害に遭遇したときはどんなところへ避難すべきなのか。そんなことを考えながら、わたしも自分の目で避難場所を確認し、自分の足で避難経路を歩いてみようと思います。

災害への知識や情報を得ることはとても大事なことで改めて思いました。皆さんも災害に備えて、まず自分の命は自分で守ることから考えて見ませんか。

あなたの知りたいことをテーマに取り組んでいただく市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをレポートしてみませんか。

平成18年度市民リポーターについての申し込み・問い合わせは情報推進グループ（☎6586）まで。